

取引先に「カイゼン」紹介

佐野テック 見学会で情報交換

橋りょう部品の製造販売などを手掛ける佐野テック（本社三重県菟野町、佐野貴代社長、電話059・391・0200）は、本社工場に向けられた取り組みを紹介する「カイゼン見学会」に力を注いでいる。自社の活動を公開し、業務改善手法について情報交換する。異業種のノウハウを積極的に取り入れ、一段の生産性向上につなげる。

（四日市・山田駿太）

異業種ノウハウで生産性向上

同見学会では、若手社員が本社工場を案内し、自社の活動を説明。見学後は複数の班に分かれてグループディスカッションを行い、参加者同士で気付いた点などを意見交換する。

同社が見学会で紹介した取り組みは、「チホカード」

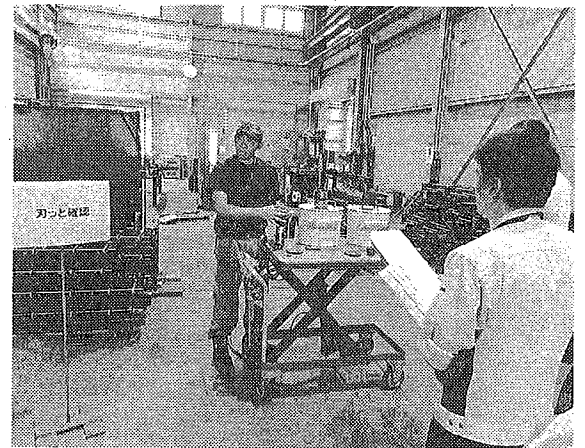
や「やさしい爪」など。チホカードは原材料や備品などを発注する際、品番や数量、納期などを明記したカードを用いることで、発注漏れや納期の遅れを防ぐ。やさしい爪は、フォークリフトの爪を5センチ間隔で着色。フォークリフトの座席

からでも爪が奥まで入っているか確認しやすくしている。

見学会の開催を契機に、参加者の企業への視察も行う。佐野テックはこれまで視察で、社員が複数の班に分かれて社屋を持ち回りで掃除する仕組みなどを採用した。

また、若手社員に案内を任せることで、自社の取り組みへの理解を深めたり、接客のスキルを高める狙いもある。

見学会は2009年、当時社長だった佐野明郎会長



生産性向上に向けた取り組み内容を紹介する「カイゼン見学会」を開催している

が始めた。現在は年3回開き、累計で288社、638人が参加している。佐野社長は「社外の事例を参考にすることで、新たな業務改善策の発見につなげたい」と話している。